



## ◀学ぶよろこびを共有して

2月5日、市民会館で「第17回笠岡市生涯学習フェスティバル」が開催されました。

会場内には、各公民館や市民グループなどの学習成果の発表パネルや作品が展示されたほか、飛島公民館による伝統の手打ちうどんなどの販売もあり、多くの人々が訪れていました。

舞台では、各種団体の事例発表が行われ、吉田地区のエヒメアヤメ保存への取り組みや、陶山1組民泊協会の民泊の思い出も発表されました。最後に登場したのは、神島外浦の伝統行事「奴行列」。ちょんまげ姿の奴と露払いが舞台の上を勇壮に歩く姿に、観客からも拍手が贈られていました。

午後からは、「郷土の先人に学ぶ」と題して、関藤藤陰、小寺清先、森田思軒といった笠岡の偉人についての講演・シンポジウムも行われました。



## ▶一緒に豆をまきましよう!

2月3日の「節分の日」、市内の幼稚園などで豆まきの行事が行われました。

尾坂幼稚園の園児15人は、地区の高齢者のお宅を訪問し、一緒に豆まきを楽しみました。最後に「かぜをひかないようにしてね、もうすぐはるだよ」と書いた絵手紙とお歌、全員で声をそろえて「たくさん幸せが来ますように」のメッセージを贈りました。

## ◀給食っておいしいだね

全国学校給食週間（1月24日～30日）期間中の1月30日、市内の生涯学習学級の人たちを対象に学校給食試食会が行われました。

参加者は、まず給食センターを見学し、センターの概要や調理課程の説明を受け、中央小学校の教室でその日出された給食を試食しました。幼児学級の子どもたちは、おいしそうにほおばりながらうれしそうに笑顔。その他の参加者も普段は食べない給食を食べながら、学校給食に対する理解を深めていました。



## ▶新しい看板を設置

2月8日、認知症介護研修センター前に設置された看板の除幕式が行われました。

これは、「介護保険法の改正により、「痴呆」表記を「認知症」に変更したことに伴い、昨年10月に「笠岡市痴呆介護研修センター」が「笠岡市認知症介護研修センター」に名称変更したことに伴うものです。この石製の看板は、北木島の石材業の鳴本浩二さんと石材加工業の山本勝典さんが制作し寄贈。二人には市から感謝状が贈られました。

